

ジェンダード・イノベーション研究所における産学交流会の取組

産学交流会では、研究成果報告に加え、学生による企業分析やワークショップ等、多様な取組を展開した。
参加企業のジェンダード・イノベーションへの関心を高め、産学連携を促進するプラットフォームとして機能している。



研究紹介

ジェンダード・イノベーション研究所の研究員による研究紹介に加え、民間企業との共同研究プロジェクトの事例紹介を実施。

- 産学交流会には多様な業種から、**多数の企業・担当者が参加**。本学URAや産学連携部門担当者が参加し、企業・研究者間のマッチング支援を実施した。

参加企業数(延べ)

参加者数(延べ)

(R4-R7) **236社** **433名**



産学交流

テーマ別のグループディスカッションや交差性に配慮した課題解決法の探索に役立つ「交差性デザインカード」を活用したワークショップを実施。

- 産学交流会のネットワークを活用し、**計33件の共同研究・プロジェクト**を実施。**計1.2億円を上回る共同研究費**を獲得した。



学生発表

「ジェンダード・イノベーション起業演習」の受講生が「交流会の参加企業の業種×ジェンダード・イノベーション」をテーマに発表。

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計
共同研究・プロジェクト数(件)	10	8	5	10	33
共同研究費獲得額(億円)	0.3	0.4	0.3	0.2	1.2

ヒューマンライフィノベーション開発研究機構における研究支援の成果について

ヒューマンライフィノベーション開発研究機構(OHLI)において、論文投稿費及び学会発表費に対する助成を継続的に実施した。その取組により、論文発表数や競争的研究費の獲得件数において確かな成果が現れている。

論文発表数

単位：件	第三期 平均	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	第四期 平均
ヒューマンライフ サイエンス研究所	60.3	77	68	72	83	76
人間発達教育科学 研究所	46.7	71	63	74	48	64
機構全体	107	148	131	146	131	140

代表的な研究事例



地球規模の食料問題の解決と人類の宇宙進出に向けた昆虫が支える
循環型食料生産システムの開発（ムーンショット型農林水産研究開発事業）

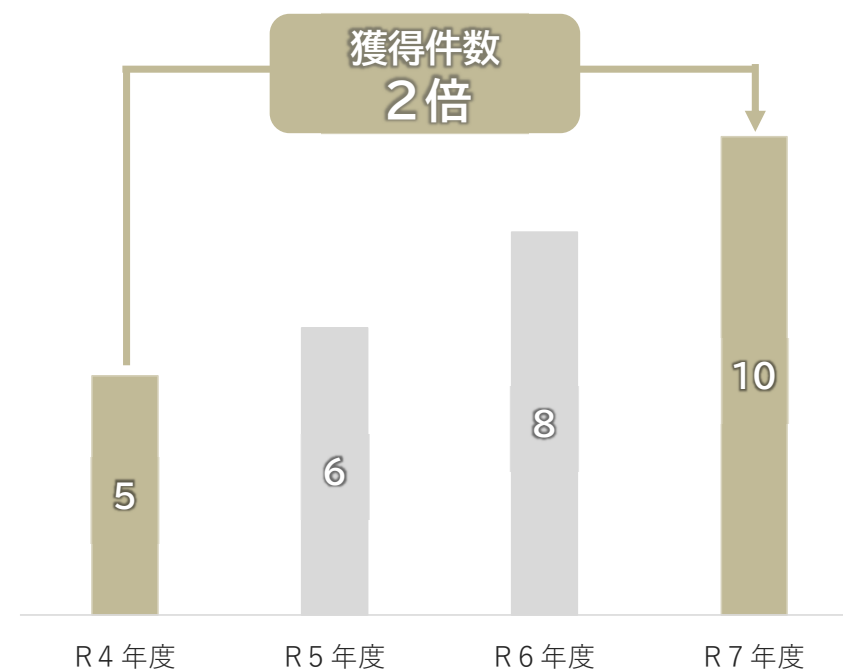
由良 敬 教授



脳のアナログ調節機構を支える間質液動態の解明（創発的研究支援事業）

毛内 拓 助教

競争的研究費(科研費を除く)の獲得件数



* 内閣府発表の「競争的研究費制度一覧（省庁別予算）」をもとに、
省庁による競争的資金を集計。

OCHA-SDGs学生委員会の取組について

OCHA-SDGs学生委員会の企画・立案により、「生活者起点」をテーマとしたSDGsプロジェクトを計63件実施した。学生や教職員、民間企業、附属学校園を巻き込んだ実践を通じて、**将来、SDGs推進を担うリーダーを養成した。**

フードドライブの実施



▲附属小学校での教育活動の様子

(株)セブン&アイ・ホールディングスと連携し、同社のフードドライブ活動を参考に取組を実施した。学生委員が附属学校園において教育活動を行うことで全学で活動への理解を深めた。

規格外野菜プロジェクト



▲公開勉強会のポスターと会場の様子

農業従事者へのインタビュー等を通じ、規格外野菜の活用につわる課題を調査した。その結果を踏まえ、消費者が生産者への理解を深める機会の創出を目的として、公開勉強会を企画した。

文京区と連携した取組



▲意見交換会で発表する学生の様子

地球温暖化啓発イベント「クールアースフェア」に出展したほか、「文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会」に参加し、他大学や企業と取組の共有等を行った。

マイボトルプロジェクト

学内食堂にウォーターサーバーを設置し、ペットボトル削減を推進した。サブスクリプション形式を導入し、約3,299本分の削減を達成した。

SDGsカフェ

本学学園祭にてプラントベース食材によるパフェや食用コオロギ食品を提供し、楽しくSDGsを体験できる場を提供した。

企業×お茶大 ガチンコSDGs

企業参加者と学生委員がSDGsの取組を発表し、相互にフィードバックを行うイベントを開催した。

「乳幼児ケアと就学前教育」の取組と成果について

参加者のECD(Early Childhood Development(乳幼児ケアと就学前教育))の理念と保育実践への理解を深め、各国でその学びを生かして活躍できるよう後押しした。

講義＋視察＋演習の複合型プログラム

乳幼児期の保護と教育を一体化した日本式のECDモデルについて、講義や本学附属学校園の視察、ワークショップ・討論を通じて理解を深める。



▲ 本学こども園を視察する様子

アクションプランの策定

研修で習得したECDに関する専門的知見・経験、日本の実践手法、並びに参加者同士の相互学習の成果を踏まえ、自国の課題解決に資する改善計画を策定する。



▲ 策定したアクションプランを発表する様子

アクションプランの遂行

所属組織及び関係者へのフィードバックを通して、自国の幼児教育・ECDの改善に貢献する。事後調査では、**調査対象者全員が研修で得た学びを活かした取組を各国で実施していることが確認された。**



▲ 研修で得た学びを自国でフィードバックする様子

「お茶大コンピテンシー10」について

お茶大生に卒業までに身に付けてほしい10の資質・能力として、「お茶大コンピテンシー10」を策定した。各授業で伸長が期待されるコンピテンシーをシラバスに表示することで学生の履修環境を整備した。

区 分	コンピテンシー名
新たな価値を創造する力	批判的思考力
	創造的思考力
	協働力
対立やジレンマに対処する力	問題解決力
	他者理解力
	対人葛藤解決力
責任ある行動をとる力	省察的思考力
	内部統制感
	自己制御力
	エージェンシー

▲ OECDの「Education 2030」プロジェクトを参照して設定した9項目に、本学独自の「エージェンシー」を加え、全10項目とした。

コンピテンシー (最大3つまで選択)	扱う授業回数の目安	コンピテンシーの説明	コンピテンシーを育成する 授業での活動・課題の例
☒ 批判的思考力	半数以上の授業回を通じて伸ばすことが期待される 該当なし	「自分の意見や考えを、意識的に見直す力」を指しており、具体的には「自分の意見とは違う様々な意見を検討したり、意見に確かな根拠があるかを考える力」を意味します。	様々な意見を比較する、意見や考えの根拠を提示する、自分の意見とは異なる意見を検討するなど
☐ 協働力	半数以上の授業回を通じて伸ばすことが期待される 半数未満の授業回を通じて伸ばすことが期待される	「個人では得がたい成果をグループ全体で得るために、役割分担したり、助け合ったりする力」を意味します。	グループで議論や課題を行う、複数人で課題やものをやり交すなど
☐ 創造的思考力	該当なし	「新たな価値や優れた考えを生み出す力」を意味します。	アイデア案出や考えの整理の経験を持たせる、発想や考えを整理する方法を学ぶなど

▲▼ 各授業において伸長が期待されるコンピテンシーをシステム上に入力し、シラバスに表示する機能を新たに導入した。

科目名 Course Title	Academic Presentation [26N0083] Academic Presentation		
授業言語 Language	Japanese, English		
科目区分・科目種	全学共通科目	クラス	B(理系)
コンピテンシー	◎創造的思考力、○批判的思考力、○他者理解力	カラーコード	
単位数	2.0単位	履修年次	3～4年

コンピテンシーの育成が期待される授業の割合

	全体	学部	大学院
R6年度	87%	89%	83%
R5年度	76%	78%	72%

アクティブラーニング技法の導入率

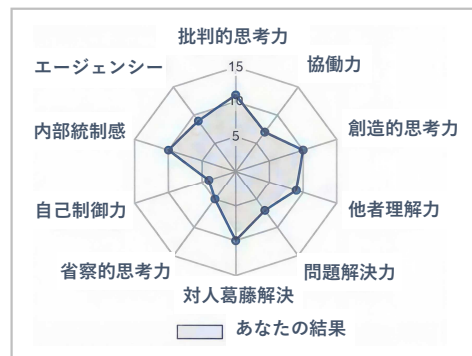
	全体	学部	大学院
R6年度	50%	56%	40%
R5年度	40%	47%	29%

コンピテンシー育成支援システム「CACICA」について

「CACICA」はセルフチェック、目標設定、行動計画、振り返り機能を備え、学生の自律的なPDCAサイクル形成を支援する。

✓ セルフチェック機能

学生自身が現時点でのコンピテンシー水準を
自己評価により可視化・把握できる
アセスメントテスト受検機能



▲ セルフチェックの結果表示画面

📋 振り返り機能

達成事項・未達成事項及びその要因を記録し、
次期目標と行動計画の策定を支援する機能

🚩 目標設定機能

自身のコンピテンシーの状態を確認しつつ、
伸ばしたいコンピテンシーを目標として
登録する機能



▲ コンピテンシー育成記録の出力画面

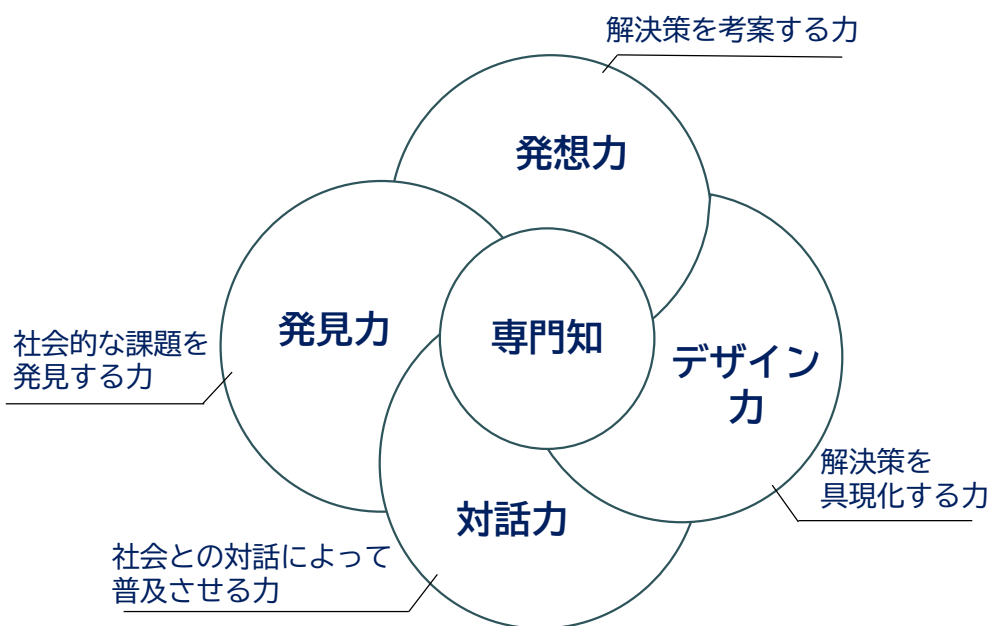
👤📊 行動計画作成機能

履修情報の取込みや注力授業の設定を通じて、
学生が目標コンピテンシーに沿った
行動計画を作成できる機能

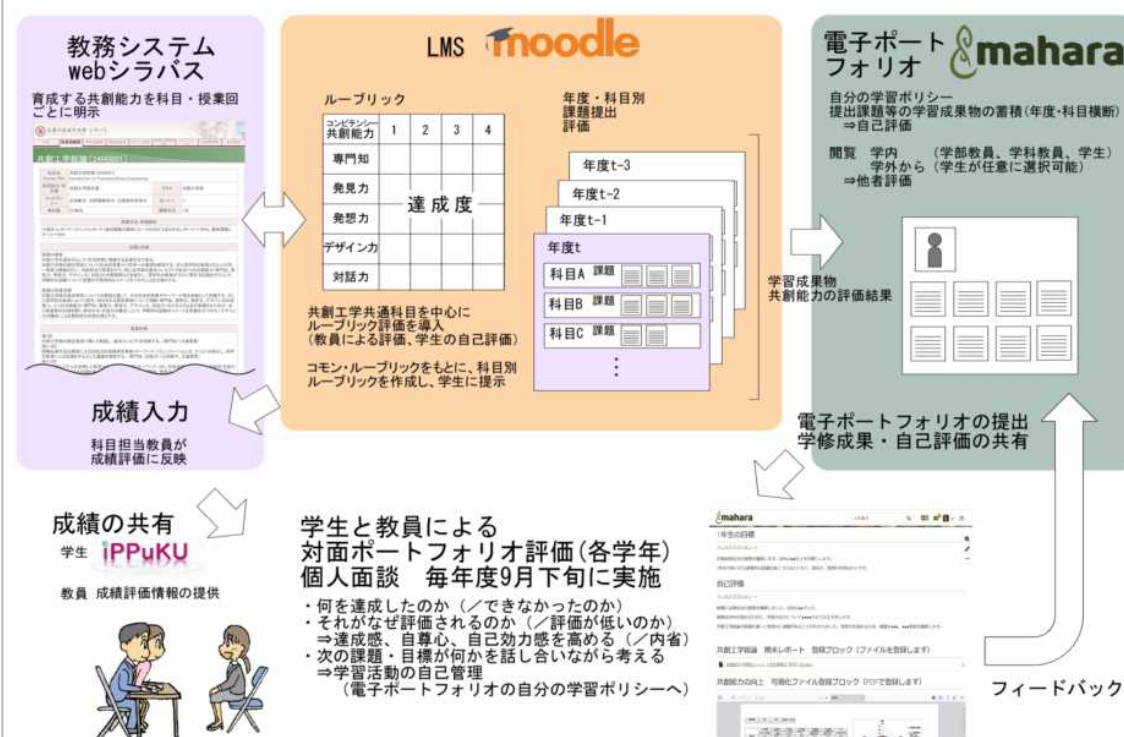
共創工学部の取組

令和6年度に新設した共創工学部では、学生への教育において重視している5つの共創能力の評価と指導を継続的・計画的に実行するためのシステム「共創工学学修ポートフォリオ」を導入した。ルーブリック評価や定期面談等のきめ細やかな学習支援が高い満足度につながっている。

共創工学部で重視する「5つの共創能力」



評価・指導を実行するためのシステム 「共創工学学修ポートフォリオ」



学士課程の教育の推進

学士課程では、教養教育「文理融合リベラルアーツ」、専門教育「複数プログラム選択履修制度」を教育プログラムの両輪として推進するとともに、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムや大学間連携等による授業の拡大により、専門性と幅広い教養を身に付けた人材を養成している。

1 年次

2 年次

3 年次

4 年次

教養

文理融合リベラルアーツ

✓ 1・2 年次を中心に履修する教養教育プログラムで、文系・理系にまたがる5つのテーマにそって、各人がそれぞれの目的や興味によって学科を問わずに自由に選択することができ、自然科学・人文科学・社会科学の3つの角度から多角的かつ体系的に学ぶことができる。

✓ 専門分野の教育プログラムとして、主プログラム・強化プログラム・副プログラム・学際プログラムの4種類のプログラムを用意し、学生自身が他学部のプログラムを含む、複数のプログラムを選択し組み合わせることで、自らの学びを主体的にデザインすることができる。

複数プログラム選択履修制度

専門

数理・データサイエンス・AI教育プログラムの導入



MDASH Literacy 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度
Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education
リテラシーレベル

MDASH Advanced Literacy 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度
Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education, designated by the Gov of Japan
応用基礎レベル

大学間連携による授業の拡大例

✓ 四大学未来共創連合・複合領域コース

本学は東京外国語大学、東京科学大学、一橋大学と共に四大学未来共創連合（Future Leading Innovation Partnership (FLIP)）として、憲章を締結し、令和8年度より「複合領域コース」へ参加している。

複合領域コースは、特定のテーマのもとに、協定大学が提供する、各大学の特色を活かした授業科目を学ぶことで、課題を多角的に捉え、総合的に解決策を構想する力を育み、培った柔軟な思考力と俯瞰的な視野を、社会の多様な場面で新たな価値を生み出す力として発揮することができる人材の育成を目的としている。

①必修

②選択必修

③選択

主プログラム
(所属学科の内容)

強化プログラム

(主プログラムの内容に深く特化)

副プログラム

(主プログラムとは異なる分野)

学際プログラム

(領域融合型・学際的専門領域)

副プログラム

学際プログラム

博士前期課程の教育の推進

博士前期課程では、「学士・修士一貫トラック」制度を推進し、社会変化に対応できる高度な専門性と普遍的なスキルを備え、実践力を持った人材を養成している。

「学士・修士一貫トラック」制度



大学院進学を志願する学生に対し、学部在籍時から大学院授業科目の履修や研究指導の機会を提供することにより、学部と大学院の教育を架橋し、専門的な学修を促進する。

第4期中期目標期間 本制度を導入している専攻・コースの拡充状況

R3末までに本制度を導入した専攻・コース

- ・ アジア言語文化学コース
- ・ 生活文化学コース
- ・ 教育科学コース
- ・ 心理学コース
- ・ ジェンダー社会科学専攻
- ・ 生命科学コース
- ・ 物理科学コース
- ・ 化学・生物化学コース



R7実施入試より追加導入

- ✓ 仏語圏言語文化学コース
- ✓ 保育・児童学コース

R8実施入試より追加導入

- ✓ 応用社会学コース

※生活工学共同専攻はR8より募集停止のため本制度も廃止。

中期計画【K12-2】別添資料

博士前期課程 共創工学専攻の取組

令和8年度に博士前期課程へ共創工学専攻を新設した。カリキュラムを通して、共創工学部の理念を継承し、さらに高度な専門性と実践力、リーダーシップを備えた専門家を育成している。

既存5専攻の教育資源を活用した新専攻の設置

生活工学共同専攻

比較社会文化学専攻
ジェンダー社会科学専攻

理学専攻
ライフサイエンス専攻

生活工学共同専攻を通じて
培われた共創のための手法
(生活工学、社会実装)

両専攻を通じて培われ
た共創のための手法
(人文学・社会科学)

工学領域の拡大
(情報工学)

共創工学専攻

工学と人文学・社会科学の知が協働し、
共に未来の環境、社会、文化を創る

カリキュラムマップ

修了

2. 専門科目群

自らの専門分野において
高度な知識と技術、すなわち
高度な専門知を修得し、
その分野で専門家となりう
る「専門力」を涵養。

1・2年

1. 共創基礎科目群

幅広い工学、人文学・社会科学の専門領域を協働させ、新しい技術や文化すなわちモノ・コトを工学的手法によって創造することができる「共創能力」(発想力、発想力、デザイン力、対話力)の基礎を涵養。

共創基礎科目群

共創能力 (DPA) の基礎の涵養: 共創能力
(発想力・発想力・デザイン力・対話力)
の理解、工学分野との社会共創の基礎

- ◎共創工学概論 (2)
 - ◎共創データサイエンス演習 (2)
 - ◎知的財産特論 (1)
 - ◎技術者倫理 (1)
- 4単位以上

修士論文

専門科目群

専門力 (DPB) の涵養: 高度な工学の知識・技術、共創する学術系知識

工学系科目より4単位以上、
工学と共創する学術系科目より4単位以上、
そのうち演習科目は4単位以上

文化情報	環境	人間
システムデザイン特論 建築意匠特論 都市デザイン特論 共創データベース特論 共創データ工学特論 画像・音声技術特論 可視化技術特論 ヒューマンコンピュータ インタラクション演習 空間デザイン演習 都市デザイン演習 共創データベース演習 共創データ工学演習 画像・音声技術演習 可視化技術演習	水環境工学特論 建築環境工学特論 建築人間工学特論 共創コンピュータネット ワーク特論 共創分散処理特論 水環境工学演習 建築環境工学演習 施設デザイン演習 共創コンピュータネット ワーク演習 共創分散処理演習	身体行動計画特論 バイオマテリアル特論 衣環境機能材料特論 共創数理情報学特論 共創非線形数理特論 身体行動計画演習 バイオマテリアル演習 衣環境機能材料演習 共創数理情報学演習 共創非線形数理演習
テキストアナリティクス 特論 文化情報学特論 歴史情報学特論 テキストアナリティクス 演習 文化情報学研究演習 歴史情報学研究演習	自然地理学論 地理情報科学 都市環境学 フェミニスト空間論 地理情報科学演習 フェミニスト空間論演習	第四紀学特論 共創生命情報学特論 言語科学特論 認知科学 人体計測学演習 共創生命情報学演習 言語科学演習 認知科学演習

専門実践科目群

共創能力 (DPA) ・実践力 (DPC) の涵養:
高度な専門知を社会実装する実践的科目

◎共創工学特別研究 (修士) (8)

- ◎共創工学演習 I (1)
 - ◎共創工学演習 II (1)
 - ◎共創工学演習 III (1)
 - ◎共創工学演習 IV (1)
- 2単位以上

工学系科目

- 共創インターン I (2)
- 共創建築インターン I (2)
- 共創建築インターン II (2)*
- 共創工学WS・ファシリテーション (LIDEE) (1)

工学と共創する 学術系科目

◎ 必修科目 ○ 選択必修科目

*は修了要件に含めない

3. 専門実践科目群

共創能力及び、社会ニーズに対応でき、かつ修得した高度な専門知を社会実装させ、リーダーシップを発揮できる「実践力」を涵養。

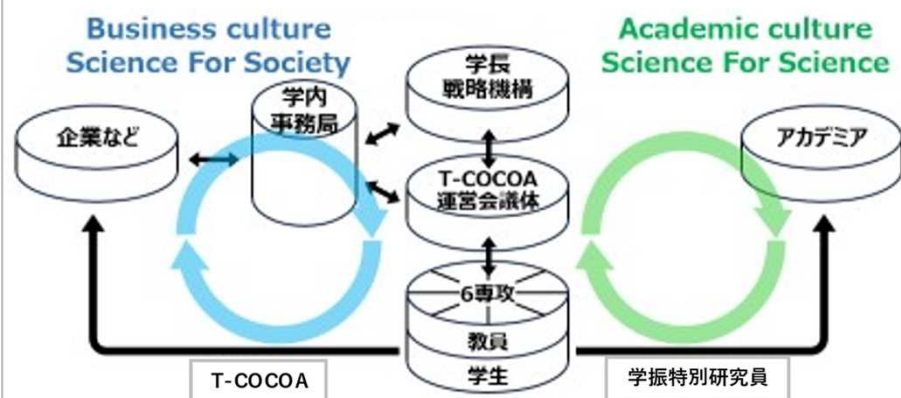
博士後期課程の教育の推進

博士後期課程では、優秀な人材に対して、科学技術振興機構(JST)採択事業による経済支援・キャリア支援を行うとともに、当該事業で培ったキャリア教育を、他の博士後期課程学生へ波及させることで、社会の多様な方面で求められ、活躍できる人材の養成を行っている。

JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」採択事業 「革新」×「共創」で未来を拓く女性博士育成プロジェクト T-COAO

-コンセプト-

世界の人々と協働し、生涯にわたりより良い未来の創造に向けた変革を起こす「革新」×「共創」力を備えた人材を育成する。



取組例：産学共同によるPBTs型授業

「実業界で活躍する女性博士のためのキャリア形成特論」の新設

目的

- ・協働・共創の基礎となる能力の向上
- ・AI・データサイエンス技術の基礎知識・スキルの向上
- ・キャリアパスに関する視野拡大

授業内容

- ・文理融合チームでProject Based Team Study
- ・AI・データサイエンスの講義
- ・実務家によるキャリアパス講義

その他、アントレプレナーシップ教育【K10】や、コンピテンシー育成支援システム「CACICA」【K6】を活用したトランスファブルスキルの涵養、海外派遣研修、テラーメイド型インターンシップ、企業等とのマッチングイベント、OG懇談会、個別面談等、多様な教育・支援を行っている。

当該採択事業採用学生以外の博士後期課程学生にも、共通科目として開講している。

日本人学生の国際力向上に向けた取組

文部科学省採択事業による国際交流プログラム等の充実により、語学力や国際感覚の醸成を図っている。

文部科学省「大学の世界展開力強化事業（インド太平洋地域等）」採択事業 グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型EDIプログラム



令和4～7年度における科学研究費助成事業(科研費)実績について

■ 本学の科研費採択実績

年度	女性比率	女性比率 順位	40歳未満 比率	40歳未満 比率順位	新規採択率	新規採択率 順位
R4	58.7%	<u>1</u>	32.9%	<u>5</u>	39.1%	<u>4</u>
R5	61.8%	<u>1</u>	35.5%	<u>4</u>	40.8%	<u>5</u>
R6	63.0%	<u>1</u>	34.9%	<u>3</u>	30.9%	<u>21</u>
R7	62.1%	<u>1</u>	30.1%	<u>16</u>	44.0%	<u>2</u>

※ 順位は全国立大学中の順位を示す。

■ メンター制度利用者の科研費採択率

	R4	R5	R6	R7
利用者における採択者数 (A)	17	12	14	12
全利用者数 (B)	32	29	35	25
採択率 (A) / (B)	<u>53.1%</u>	<u>41.3%</u>	<u>40.0%</u>	<u>48.0%</u>

メンター制度利用者の採択率は
本学の新規採択率と比しても高水準を保持。

■ 【参考】令和7年度 国立大学実績抜粋（新規採択率上位5校）

機関名	採択件数 (件)	女性比率 (%)	40歳未満 比率 (%)	新規応募 件数 (件)	新規採択 件数 (件)	新規採択率 (%)
一橋大学	273	24.9	28.9	173	94	54.3
お茶の水女子大学	153	62.1	30.1	109	48	44.0
東京外国語大学	127	45.7	11.8	101	43	42.6
東京大学	3992	17.0	37.2	3436	1305	38.0
京都大学	2813	18.7	31.7	2429	906	37.3